

復活節第4主日礼拝 説教要旨(4月26日)

『福音のはじまり』清瀬弘毅教師

マルコによる福音書 1:1-8

このマルコ福音書は“神の子イエス・キリストの初め”と言って、旧約のイザヤ書から始まります。

しかし、他の預言からも引用されています。出エジプト記やマラキ書などからです。そして、“主の日が来る前に、エリヤが来る”。その人によって、荒れ野で“主の道を備えよ”との声がすると預言されていたのです。帰郷を切願していたイスラエルの人々に、その預言が、今、実現されたと宣言されました。

洗礼者ヨハネがイエス・キリストの先駆けだと言う事は「イエス・キリストこそ神である」と言う事を表わしています。神が肉を取って私達の中に来てくださった。それを信じる事が信仰であります。

ヨハネは人々が“罪の赦しを受ける為に、悔い改めの洗礼を受けました。

私達が神様に救われる為に、一番大切なことは何か？それは、自分が神様に従って生きて来たかどうか。むしろ、神様に背いて生きて来たのではないか。その事に気付く事ではないでしょうか？・・・。

更に、イエス・キリストを救い主として心に迎え聖霊のバプテスマを受けなさいと聖書は語ります。

ヨハネは主イエスが公生涯にお入りになられた時、自分の弟子達をキリストに譲って姿を消します。イエス・キリストこそ神の小羊である。ヨハネはキリストを指し示しながらその生涯を終えます。

そして、マルコ福音書は冒頭で「イエス・キリストの福音宣教の始め」と記しました。これから、福音が動き始める。主の御業が働き始めた。その福音をここに書くのだとマルコ福音書は語っているのです。